

キーワードで見る長浜の財政

キーワード① 財政指標

Q. 市の財政状況はどのように判断しているの？

A. 自治体財政の健全性は、4つの指標で判断されています。長浜市はすべての指標で基準をクリアしています。

健全化判断基準（平成22年度決算）

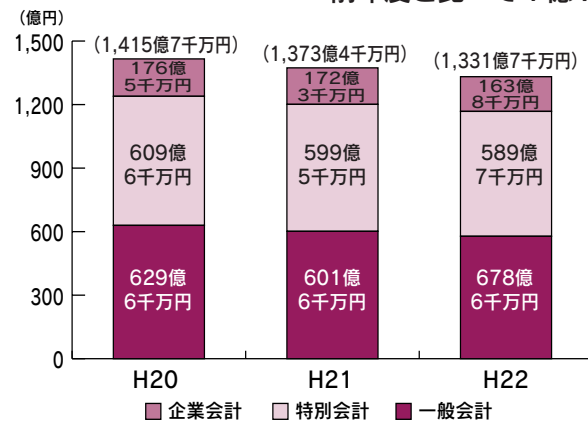
指標	内容	長浜市	早期健全化基準*
実質赤字比率	一般会計を対象とした赤字の割合。	赤字なし	11.57%
連結実質赤字比率	一般会計、特別会計、企業会計のすべての会計の赤字の割合。	赤字なし	16.57%
実質公債費比率	年間の借金返済額の割合。これが高いのは借金返済に縛られていることを意味する。	14.3%	25.0%
将来負担比率	将来負担が見込まれる負債の割合。これが高いと、今後の財政運営に問題が出る可能性が高くなる。	25.9%	350.0%

※この基準をこえると、財政再建のための計画をつくり、立て直しに取り組む必要があります

キーワード② 市債

Q. 市債ってなに？

A. 市債とは、市の借金のことを指します。その額は、平成22年度末現在で一般会計、特別会計、企業会計を合わせて1,331億7千万円、市民1人あたり106万円です。前年度と比べて1億7千万円、市民1人あたり3万円減少しました。



Q. どうして借金をするの？

A. 将来にわたって費用を分担するためです。市債は、学校や公民館など、世代を超えて長期間使用する公共施設を作るときに発行します。これは財源を補う目的のほかに、市債を分割して返済することで、各年度の平準化を図り、将来の世代の市民にも費用を公平に負担してもらうという意味もあります。

キーワード③ 地方交付税 特例措置

Q. 国や県から今まで通りお金をもらえるの？

A. 国や県からもらえるお金はだんだんと少なくなってしまうと予想されます。特に国が地方に代わって徴収した国税を再配分する「地方交付税」は確実に減ってしまうため、厳しい財政運営となることが予測されます。

～地方交付税特例措置とは～

市町村合併による経費の節減は直ちにできるわけではないので、合併後10年間は別々の市町村が存在するものとみなして、地方交付税が算定されます。(長浜市は約54億円)

しかし、この54億円が平成27年度より段階的に削減され、平成33年度以降は1つの自治体として算定され、なくなってしまう。

Q. では、推測される厳しい財政運営を前に、市はどのような取り組みを進めているの？

A. 市の財政運営も家庭や民間企業のやりくりと同じです。先々を見越して、切り詰めるところは切り詰め、使うべきところは使うなどして、限られたお金に見合ったムダのない財政運営を行い、この長浜市を健全な姿で次代を担う子どもたちに引き継いでいくことが大切です。このため、未来にツケを残さない、持続可能な行財政経営の確立を目指して、市債残高の削減をはじめ、職員数の適正化や人件費の抑制、事務事業の効率化、公共施設の適正配置、補助金・使用料の見直しなどの取組を進めています。

特別会計

区分	歳入	歳出	差し引き	特徴
国民健康保険	114億2,147万円	113億8,070万円	4,077万円	1人あたりの医療費が伸び、国保財政を圧迫しました。
診療所	5億3,534万円	4億9,845万円	3,689万円	永原診療所のけん引装置とマイクログ波治療器を更新しました。
老人保健	1,110万円	151万円	959万円	後期高齢医療制度へ移行し、平成22年度で特別会計の設置が終了しました。
後期高齢者医療保険	10億864万円	9億9,758万円	1,106万円	本市では保険料の徴収・窓口業務を行っています。
介護保険	86億6,631万円	86億3,872万円	2,759万円	1人あたりの医療費が伸び、給付費等が増加、基金の取り崩しを行いました。
休日急患診療所	2,890万円	2,440万円	450万円	新規開設により、総合病院の医療スタッフへの負担が軽減しました。
公共下水道	50億3,920万円	50億3,724万円	196万円	下水道整備はほぼ終了し、現在は浸水対策として雨水渠整備に取り組んでいます。
農業集落排水	13億5,420万円	13億5,417万円	3万円	職員による管理や業務委託などにより、維持管理費の削減に努めました。
簡易水道	6億6,426万円	5億962万円	1億5,464万円	浅井・湖北・木之本・余呉・西浅井地域の安定給水に取組んでいます。

企業会計

病院事業

長浜病院	湖北病院
収入 123億5,982万円 支出 113億8,327万円 差し引き 9億7,655万円	収入 24億542万円 支出 24億8,136万円 差し引き △7,594万円
<p>長浜病院は、総合病院としての高度医療の提供や病院改革プランに基づく取組みなどにより2期連続で黒字決算となり、累積欠損金も2,784万円までに改善することができました。</p> <p>一方、湖北病院は高齢化率の高い地域における唯一の有床医療機関として、地域医療に取り組んでいます。慢性的に医師・看護師が不足し、厳しい経営環境となっており、外来・入院ともに患者数が減少、赤字となりました。</p> <p>持続可能な運営のため、経営の効率化や見直しに努め、それぞれの病院が強みを発揮し、弱みを補完できる体制を整備するとともに、地域の皆さんが安心できる医療環境を構築し、経営の健全化を行ってまいります。</p>	

木之本・高月水道事業	
収入 2億7,159万円	支出 2億8,440万円
差し引き △1,281万円	
<p>今後、水需要の低下が進み、厳しい状況に向かうと考えられますが、安全で安心な水道水の安定供給のため、施設の維持管理を適切に行い、統合によるスケールメリットを活かした経営の効率化に努めていきます。</p>	

老人保健施設事業	
収入 3億8,357万円	支出 3億8,601万円
差し引き △244万円	
<p>高齢化が進む湖北地域の介護ニーズに応えるべく、入所者定員を30床から84床に増床し、事業を行っています。施設改修等ハード面を整備し、介護職員の確保・育成に努め、介護サービスの質の向上を図りました。</p>	

資産状況

基金	財産
<p>特定の事業を行ったり、財源が不足したりするときに使う市の貯金</p> <p>●残高(平成23年4月1日現在) 265億円</p> <p>財政調整基金58億円など25基金</p>	<p>■公有財産</p> <p>土地/816万㎡</p> <p>建物/延べ面積 62万㎡</p> <p>有価証券/4億円</p> <p>出資による権利/3.4億円など</p> <p>1,113点(台)</p> <p>●貸付金等 8.3億円</p>